

スマートニュースによる新たな試み：学校現場で、クリティカル・シンキングのスキルを伸ばす

山脇，岳志

(出版者 / Publisher)

法政大学図書館司書課程

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

The Journal of Media and Information Literacy / メディア情報リテラシー研究

(巻 / Volume)

3

(号 / Number)

2

(開始ページ / Start Page)

62

(終了ページ / End Page)

68

(発行年 / Year)

2022-03

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00026049>

法政大学図書館司書課程

メディア情報リテラシー研究 第3巻2号、062-068

特集 インクルーシブなメディア教育とデジタル・シティズンシップ
(第2回韓日メディア情報リテラシーフォーラム)

スマートニュースによる新たな試み： 学校現場で、クリティカル・シンキングのスキルを伸ばす

山脇岳志

スマートニュース メディア研究所

こんにちは、山脇岳志と申します。

本日は「スマートニュースによる新たな試み：学校現場で、クリティカルシンキングのスキルを伸ばす」というテーマで、10分ほどお話をさせていただきます。

まず、簡単に自己紹介を致します。

私は、1964年、前回の東京オリンピックの年に生まれました。34年間、朝日新聞社で仕事をしてきましたが、その間に2度、アメリカで勤務をしました。2度目はアメリカ報道の責任者として、トランプ氏が大統領に当選した選挙をカバーしました。

コラムを書く編集委員などを経験した後、メディアリテラシー教育やメディア研究をやりたくて、スマートニュースメディア研究所に転職。現在、研究主幹を務めております。

山脇岳志 (やまわき・たけし)

1964年 兵庫県出身。

1986年 朝日新聞社に入社。事件事故、地方行政調査報道、経済担当（大蔵省、日銀、IT関係など）

1995～96年 オックスフォード大学客員研究員

2000～2003年 ワシントン特派員（経済担当）

2003～2006年 論説委員

2007～2012年 GLOBE創刊、編集長に

2012～2013年 ベルリン自由大学上席研究員

2013～2017年 アメリカ総局長（大統領選カバー）

2017～2020年 編集委員としてコラム執筆後、退職

2020年4月～スマートニュースメディア研究所 研究主幹

2021年4月～京都大学経営管理大学院特命教授



スマートニュースは、韓国ではあまり知られていないかもしれませんが、日本においては、ユーザー数ではトップの「日本最大のニュースアプリ」として知られています。



3000 もの提携媒体から多様なコンテンツの提供を受け、政治や経済などのニュース以外にも多彩な趣味の情報を扱うチャンネルが 1000 以上あります。

スマートニュースは様々な新聞社や雑誌社などの媒体と契約して、情報を受け取り、それをキュレーションしてユーザーにお届けする、というビジネスモデルです。ユーザーは無料でアプリをダウンロードして使うことができ、広告収入でビジネスを組み立てています。

設立は 2012 年と、歴史の新しい会社です。まだできて 9 年ですが、急成長していて、社員数は現在 500 人近くいます。未上場で時価総額 10 億ドル以上の企業をユニコーンといますが、日本に数少ないユニコーン企業の 1 つです。

スマートニュース メディア研究所は、スマートニュース株式会社の一部ではありますが、独立性があって、収益事業は行っていません。「ニュースやメディアが本当に人々のためになっているのか」などをテーマに、メディアリテラシー、メディア研究、ジャーナリスト支援などを行っています。



では、本日のテーマである、メディアリテラシーについて簡単にお話します。

「メディアリテラシー」とは？

5

- 多義的な言葉 (さまざまな定義がある)

広義のメディアリテラシーは、情報リテラシー(情報の真偽を見極める)、ニュースリテラシー、デジタルリテラシーなどを含んでいる。

- 狭義のメディアリテラシー

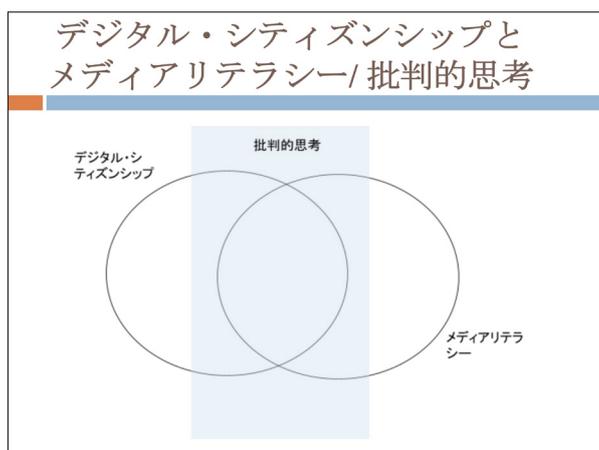
「民主主義社会におけるメディアの機能を理解するとともに、あらゆる形態のメディア・メッセージへアクセスし、**批判的に分析評価し、創造的に自己表現し、それによって市民社会に参加し、異文化を超えて対話し、行動する能力**」
坂本旬・法政大学教授(2020)

広義のメディアリテラシー概念図

メディアリテラシーという言葉は、様々な定義のある、多義的な言葉だと思います。大きく言うと、広義のメディアリテラシーと、狭義のメディアリテラシーがあると考えています。広義のメディアリテラシーは、情報リテラシー(情報の真偽を見極めるようなリテラシー)や、ニュースリテラシー、デジタルリテラシーなどを含んでいます。

狭義のメディアリテラシーは、法政大学・坂本旬教授の定義を借りれば、「民主主義社会におけるメディアの機能を理解するとともに、あらゆる形態のメディア・メッセージへアクセスし、批判的に分析評価し、創造的に自己表現し、それによって市民社会に参加し、異文化を超えて対話し、行動する能力」ということになります。これは国際的なメディアリテラシーの定義に沿っている、と思います。

次に、メディアリテラシーとデジタル・シティズンシップ、そしてその根幹にあるクリティカルシンキングについて、ごく簡単に整理したのがこの図となります。



デジタル・シティズンシップとメディアリテラシーはかなり重なっている部分が多いと思うのですが、その両方にまたがる形の基礎として、クリティカルシンキングは非常に重要だ、と思います。そもそも、クリティカルシンキングとはなんなのか。この言葉も多義的です。この分野の日本

における第一人者である京都大学の楠見孝教授の定義に従えば、1つ目に「論理的・合理的な思考」、2つ目に「自分の推論プロセスを意識的に吟味する内省的、熟慮的な思考」、3つ目が「よりよい思考を行うための目標思考的思考」となっています。

批判的思考（クリティカル・シンキング）とは？

「非難する」ことではない。むしろ「吟味する」こと。

楠見孝・京大教授の「批判的思考」の定義

- 1) 論理的・合理的な思考
- 2) 自分の推論プロセスを意識的に吟味する内省的(reflective)、熟慮的な思考
- 3) よりよい思考を行うための目標思考的思考



京都大学大学院教育学研究科
長・教育学部長
楠見 孝 氏

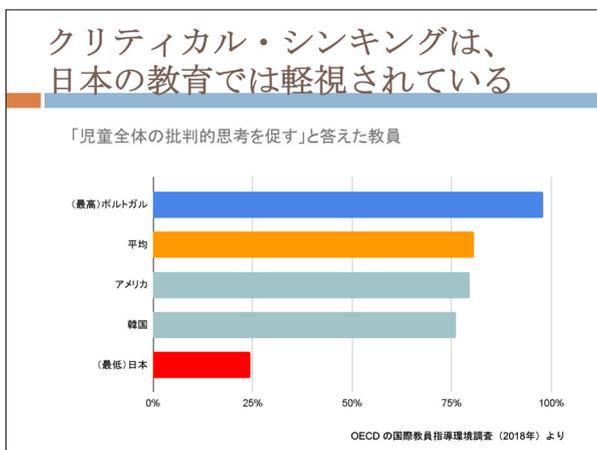
もう少し分かりやすく解説します。

クリティカルシンキングの「クリティカル」は、ギリシャ語の見分ける、判断すると言う意味を表す「クリティコス (kritikos)」が語源で、「安易に鵜呑みにしない」「常識や思いこみにとらわれない」「議論の前提も含めて問い直す」ということだと思います。

日本では、「批判的」というと、人を「批判」したり「非難」したりするネガティブな意味にとられがちですが、国際基督教大学の生駒夏美教授は「自ら考えた結果、否定するだけでなく肯定することもクリティカルシンキング（批判的思考）」としています。

この言葉は、大事なことを伝えていると思います。

日本では、クリティカルシンキングは重要視されておらず、OECDの国際教員指導環境調査(TALIS) 2018年報告書で、(授業において)「生徒の批判的思考を促す」と答えた中学校教員は、参加48カ国平均では8割くらいだったのですが、日本では2割台にとどまりました。



韓国の先生たちの75%以上は、(授業で)クリティカルシンキングを促しているようです。一方、日本はそうではない。ここをなんとかしたいな、と我々は考えているところです。

では、スマートニュース メディア研究所でメディアリテラシーについて、具体的にどんな取り組みをしているのか、についてご紹介します。授業実践例、オンラインゲーム教材、出前授業、論考、書籍と主に5点あります。

教育現場に	全ての人に
1、授業実践例	4、論考 (HP)
2、オンラインゲーム教材	5、書籍
3、出前授業	

まず、授業実践例について。研究所のウェブサイトに、無料でダウンロードできる教材を載せています。クリティカルシンキングの育成にフォーカスしたような教材を取り上げています。

： https://smartnews-smri.com/literacy_category/practice/



2つ目は、SNSでの情報受発信について考えるオンラインゲーム教材を開発しました。中学生～大学生を対象としています。

フェイクニュースと真実のニュースを見分けながら、シェアするかしないかを考える教材です。教育機関向けに無償で提供しています。

： <https://smartnews-smri.com/literacy/literacy-468/>



3点目は、出前授業です。研究所員が中学や高校、大学へ出かけて行って、無償でメディアリテラシーの授業を行なっています。最近はコロナの影響で、なかなか学校に行けなくてオンラインでもやることもあります。社会と学校をつなぐというコンセプトで行なっています。

: <https://smartnews-smri.com/literacy/demae-casestudy/>



4点目として、ウェブサイトにはさまざまな学者などの専門家・ジャーナリストの方々の論考を掲載しています。ここで、概念からして複雑なメディアリテラシーについて、読者の方々に理解を深めていただくようにしています。

: https://smartnews-smri.com/literacy_category/interview/

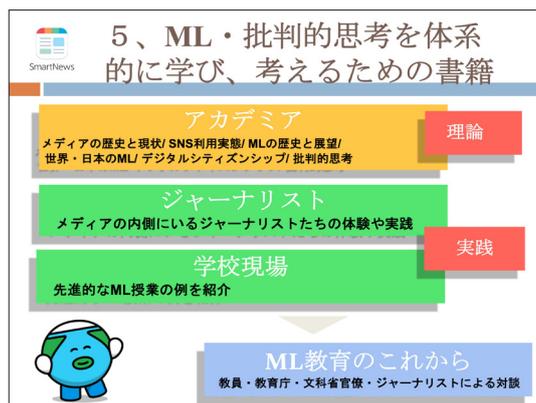


最後に、5点目として書籍を今準備しております（当時）。

メディアリテラシーの分野では、研究者の方々が、多くの立派な本を出版されています。また、ジャーナリズムやメディアの激変ぶりや問題点について伝える本もたくさんあります。

ただ、お互いの世界が分断された感じがありました。

これら二つの世界をブリッジする、両方にまたがるようなメディアリテラシーの理論と実践が網羅されたテキストブックを、坂本旬教授と私が編者となって、編集・執筆しているところです。



2021年12月末に時事通信社から刊行される予定です。日本におけるメディアリテラシー入門の画期的な本にできれば、と願っています。

： <https://bookpub.jiji.com/book/b597275.html>

以上が研究所の取り組みの概要となります。

今の社会は、ご存知のように、虚偽ニュースやデマが広がりやすい世界です。

ソーシャルメディアは便利で良いこともたくさんありますが、一方で、デマが急速に広がったり、人を傷つける情報が、あっという間に多くの人に伝わってしまう。そのことによって傷つく人もいたり、場合によっては自殺するような方も出てくる。

このような社会において、情報をしっかり吟味する、それをシェアするかどうか立ち止まって判断する、メディアリテラシーやクリティカルシンキングの力はますます重要になってきていると思います。

我々は、小さなシンクタンクですが、日本で少しでもクリティカルシンキングを育む教育が広まるように微力を尽くしたいと考えています。

韓国の皆様とも、もしも一緒に何か取り組めることがあれば、ぜひ一緒に取り組みたいと思っています。

本日はご清聴いただき、ありがとうございました。